

臨床活用コースの講師が最終決定し、また PK-PD 応用のテーマが変更となりましたので、案内を再送させていただきます。

内容を再度ご確認頂き、受講をご検討下さい。

薬物治療モニタリング研究会 第66回特別ゼミナールのご案内

実行委員長・代表幹事 篠崎公一

実行副委員長・副代表幹事 澁谷正則

この度、下記の要領にて特別ゼミナールを開催する運びとなりましたのでご案内申し上げます。

本研究会特別ゼミナールは一昨年の62回から、4コースを2日間で開講し同日内でコース選択制としました。60回までの基礎コースをさらに2段階に分け、TDMの初心者を対象とした1日目の基礎初級コースと従来の基礎知識・対象疾患・対象薬とその投与設計法を学ぶ応用中級コースを開設しました。また従来の臨床活用コースをさらに進め、初日に以前より受講者の多かった1日目全日開講の「薬剤師が薬物治療に積極的にかかわるうえでのTDMの役割」をテーマとする臨床活用コースとして開講し、また2日目全日開講のPK-PDに焦点を合わせたPK-PD基礎と応用コースを設けました。本コースはPK-PDの基礎および応用としてPK-PDの理解を深める実践的な取組みを学べるコースとなっています。

基礎初級コースは「4ステップ臨床力UPエクササイズ④TDM領域(じほう社)」を執筆されました三浦崇則先生と万塩裕之先生に本書を元に「TDMの教科書的な知識を臨床スキルヘシフトチェンジ」をテーマに講義、演習、ワークショップを行う予定です。

応用中級コースは、「薬物動態学と薬力学の臨床応用;TDMの正しい理解のために(メディカル・サイエンス・インターナショナル)」の内容に加えて、対象疾患の基礎知識、発刊以降に得られた知見・コンセンサスなどを追加し、平成25年3月に発刊されました「新訂ウィンターの臨床薬物動態学の基礎(じほう)」の内容を踏まえて講義します。

PK-PD基礎と応用コースはPK-PDの基礎を解説する講義と薬物動態から薬効を予測する方法についてPCを用いて演習します。臨床活用コースではテーマを「薬剤師が薬物治療に積極的にかかわるうえでのTDMの役割」として、PKパラメータの特徴づけや薬物治療の評価と計画立案方法について、症例を例示し演習します。

前回開催の特別ゼミナールからゼミナール途中での受講コース変更を可能としました。ゼミナール開始後に申込コースと異なるコースを受講したいとのご要望が従来からありま

したので、自由選択とする事にしました。ただし臨床活用コースは、中途から（例えば午前中基礎初級コースで午後臨床活用コースを受講など）の受講では十分理解が得られない可能性がありますので、予め御了承ください。また PK-PD 基礎と応用コースは指定の PC およびソフトウェアが必須となります。

前回の第 64 回特別ゼミナールより、10 年以上据置いて参りました受講料を諸般の事情により改定させて頂きました。大変申し訳なく心苦しい値上げとなりましたが、今まで以上に充実したゼミナールとなるよう努力していく所存ですので、御理解下さるようお願いいたします。

以上ご多用のこととは存じますが、ぜひご参加を検討下さいますよう御案内いたします。

特別ゼミナール概要

基礎初級・応用中級コース

開催日：2019 年 9 月 28 日(土)～29 日(日)

会場：北里大学薬学部 3301 教室（タワー棟）

1 日目 --- 基礎初級コース

9 月 28 日（土曜日）

「採血から薬物濃度測定までの留意点」

講師：小杉隆祥先生（防衛医科大学校病院薬剤部）

「TDM の教科書的な知識を臨床スキルへシフトチェンジ」

コンセプト：本セミナーは、患者個々に設定した治療のゴールを達成するために薬物動態学的なアプローチを提案します。症例の情報整理や薬学的プロブレムの整理、それを評価するプロセスの構築や薬物動態パラメータと病態を結びつけて考えられるイメージ力のトレーニングを目標としています。TDM を血中濃度シミュレーションとしてではなく、患者の問題解決スキルとして活用できるようワークショップ形式でそのスキルを磨いていきます。対象者：TDM の初歩を学びたい人および TDM の知識を実務にどう活かしているか悩んでいる人を想定しています。

講師：三浦崇則先生、万塩裕之先生（安城更生病院）

2 日目 --- 応用中級コース

9 月 29 日（日曜日）

「てんかん治療と抗てんかん薬の TDM」

講師：高尾良洋先生（武蔵野大学薬学部薬学科）

「小児科領域の TDM において何を考慮すべきか」

講師：澁谷正則先生（ふれあい平塚ホスピタル薬剤科）

「アミノグリコシドおよびその他の抗菌薬の TDM」

講師：篠崎公一先生（北里大学薬学部）

「グリコペプチド系抗生物質の TDM」

講師：西圭史先生（杏林大学医学部附属病院薬剤部）

「真菌感染症と抗真菌薬の TDM（仮題）」

講師：浜田幸宏先生（東京女子医科大学病院薬剤部）

臨床活用コース

開催日：2019年9月28日(土)

会場：北里大学薬学部 3302 教室（タワー棟）

テーマ 「薬剤師が薬物治療に積極的にかかわるうえでの TDM の役割」

内 容：薬剤師には、疾患に対する薬物治療の位置づけを理解したうえで、治療薬の選択および薬物動態学・薬力学的特徴を踏まえた用法用量の評価を行い、個々の患者の最適な薬物投与計画を立案することが求められています。本コースでは特に重要な薬物動態パラメータのひとつであるクリアランスをしっかりと理解した上で、TDM を含む薬物治療の評価と計画立案方法について臨床で活用できるように症例を例示し演習します。

「薬物動態の基礎：クリアランスの変動要因と演習」

講師：花田和彦（明治薬科大学・薬物動態学研究室）

「薬物動態情報をいかに患者に適応するか」

講師：川名純一（明治薬科大学・薬物動態学客員研究員）

「新薬評価における薬物動態情報の利活用」

講師：小町和樹先生（横浜総合病院・薬剤科）

「PK-PD の視点から循環器疾患における薬物治療の実践（仮）」

講師：茂木孝裕先生（草加市立病院・薬剤部）

PK-PD 基礎と応用コース

開催日：2019年9月29日(日)

会場：北里大学薬学部 3302 教室（タワー棟）

PK-PD 基礎

テーマ：「母集団 PK-PD を理解する」

「母集団 PK 解析アップデート」

内容：薬物動態解析法、特に薬物動態パラメータとその変動要因について理解することを念頭に置いて、母集団薬物動態(PPK)解析を中心に解説する。また最近の新薬承認審査公開資料から、PPK 解析の実例を取り上げ、薬物動態パラメータとその変動因子について理解を深めることを目標とする。

講師：平岡聖樹先生

「母集団 PK-PD 解析アップデート」

講師：鈴木昭之先生（ファイザー株式会社クリニカルファーマコロジー部）

PK-PD 応用

テーマ 「データの読み方を理解し良質な薬物治療・薬物動態研究に活用するための座学演習」

講師：辻 泰弘先生（日本大学薬学部 薬剤師教育センター）

内容：参加者は Excel がインストールされた PC を各自で持参していただきます。本コースでは、演習を中心に PK-PD を予測する方法を習得します。添付文書を用いた経口薬・点滴薬の PK シミュレーション演習および副作用(PD)発現を予測するロジスティック回帰分析を予定しています。プログラミングの知識は不要ですが、Excel で簡単な計算ができる方を想定しています。（注）本コース参加者は、Excel2003-2016 のいずれかが動作する

WindowsOS の PC を持参して下さい。

※当研究会は日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師会の認定を受けております。
(単位申請中です)

特別ゼミナール募集要項

定員：基礎初級・応用中級コース（両日とも）各 100 名（先着順）

PK-PD 基礎と応用コース、臨床活用コースとも各 50 名（先着順）

受講料：

	一般会員	学生会員	一般非会員	学生非会員
1 日コース	10,000 円	3,500 円	20,000 円	7,000 円
2 日間コース	15,000 円	5,000 円	30,000 円	10,000 円

*受講申込と同時に研究会への入会も可能ですので、ゼミ当日までに年会費を納入された方の受講料は会員扱いとなります。また受講料には資料代（プリント）は含まれますが、食事代、宿泊費等は含まれません。

受講申込み方法：

研究会ホームページ内の「特別ゼミナール受講申込」ページより、必要事項を入力入して申してください。申込が確認され次第、事務局より受講申込の確認および受講料（同時入会の場合は年会費）の振込先をお知らせするメールをお送りします。

受講料の振込が確認され次第、受講申込の最終確認として振込確認メールを差し上げて、申込完了となります。（*不明な点がありましたら、ホームページ問合せページからご質問ください）

研究会ホームページ URL：<http://www.rgtdm.org/>

申し込み締め切り：

2019 年 9 月 21 日（土）（ただし定員となり次第締め切らせていただきます）

問合せ・連絡先：

薬物治療モニタリン研究会ホームページ内の「問合せページ」からお願いします。

《受講される方へ》受講に際しては、関数電卓（メモリー機能があるもの）を各自ご用意ください。また応用コースを受講される方は、Microsoft Excel がインストールされている

Windows PC を各自ご用意下さい。なお、受講料には食事代、宿泊費等は含まれません。追って、受講の確認通知と受講料入金方法を電子メールにて送付いたしますので、通知を受領後に受講料をご入金ください。また受講申込時に研究会への入会手続きを同時にして頂ければ、非会員の方でも会員としての受講料となります。

《お知らせ》薬物治療モニタリング研究会では随時会員登録を行っております。年会費は一般 3000 円、学生 1500 円です。会員登録された方へは、例会、および特別ゼミのご案内を電子メールまたはホームページでお知らせいたします。入会をご希望の方はホームページ内「研究会入会申込」ページから必要事項を入力の上、申込んでください。追って年会費入金方法をご連絡いたします。なおゼミ当日までに年会費を納入され、会員登録をされた方の受講料は会員扱いとさせていただきます。

特別ゼミナール会場およびアクセス・交通

北里大学薬学部 （〒108-8641?東京都港区白金 5-9-1）

（北里大学へは北里大学ホームページ内のアクセスマップをご覧ください）

《会場への交通》

渋谷駅から東口下車 都バス「田 87」系統 田町駅行 15 分 北里研究所前下車

広尾駅（東京メトロ日比谷線）から天現寺橋方面（出口 1, 2 番）下車 徒歩 10 分

恵比寿駅（JR・東京メトロ日比谷線）から東口下車 徒歩 15 分、又は、都バス「田 87」系統 田町駅行 7 分 北里研究所前下車

田町駅（JR）、三田駅（都営地下鉄浅草線・三田駅）から三田口下車 都バス「田 87」系統 渋谷駅行 15 分 北里研究所前下車

白金高輪駅（東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線）から恵比寿方面（出口 3 番）下車 徒歩 10 分